

基礎研修②が開催されました！！

令和2年10月23日に、基礎研修②「クライアント理解 ～アセスメント・ケアプラン作成を通じて～」をテーマに島崎 剛先生に4年ぶりにご講義頂きました。

島崎先生は数年前まで特別養護老人ホーム たいめい苑居宅の管理者をされていました。現在は久留米大学 文学部 社会福祉学科助教として教壇に立たれており、又、保健福祉学博士、社会福祉士、主任介護支援専門員でもあられます。



基礎研修①に続き、ZOOMでのリモートで行われ、画面を通した講師の声しか聞こえないという今までになかった慣れない環境での研修でした。

アセスメントとは、情報収集と分析を合わせてアセスメントです。

介護支援専門員はクライアントのすべてを知る必要はなく、すべてを知ることは困難であり本人・家族の生活に何が起きているか又、誰がどんな事を知っているかを把握することが重要なことだと話されました。

クライアントの生活全体の把握が必要で、そのために連携が必要である。クライアントの価値観や置かれている環境を理解する（わかる）必要があるのか？を学習しました。

「自己覚知とは自分を知ることによって自分の価値観や考え方を理解し自分の欠点も含め自分を受容する勇気が必要だ」とも話されました。ケアプランの1表の総合的な援助の方針は、支援者全員が支援の方向性や支援方法が分かるように記載することが必要と改めて学びました。

ケアプラン2表：今は○が原因でできないが●して◎したいと記載する。

ケアプラン3表：ケアプランは本人のものでもあり、本人・家族に記入してもらってもよいのではないだろうか。介護支援専門員はクライアントの出番を増やし、クライアントの伴走者となる。

最後に対人援助職として・・・

- ・「判断の根拠」として、どのように理解していたかを常に振り返る。
- ・相手を理解するために、自分の物差しを知り、増やす。
- ・必ず共同作業で行うことを意識する。
- ・わかったつもりにならない。分かろうとすることを続ける。
- ・クライアントの思いを感じ、大切にすることを護らない。

ことが重要。

【研修を終えて】

島崎先生は小学1年生の息子さんに絵本を読んで寝せるのが得意とか・・・。

今回の講義も優しい声のトーンで話されていました。

対人援助職者として再確認、振り返りができた有意義な研修でした。

今後も新型コロナウイルス感染拡大予防のため、研修はZOOMでのリモートとなります。

リモート研修に戸惑いがまだありますが、積極的に参加して、慣れていくしかないですね。

※基礎研修は講義動画のDVDがレンタルできます。

